

国連のアカウンタビリテイ強化と地球市民社会の役割

一 国連改革の一環として

久山 純弘

申すまでもなく、世界は現在様々な地球規模の課題に直面しており、それらの問題解決に向けての適切なグローバル・ガバナンスがますます重要となっている。そうした中で、国連の果すべき役割についての期待感も高まっているが、国連がそのような期待に応え得るには、国連自身が単に国連の創設主体（政府）の観点からのみならず、受益者（“We the Peoples”）の立場から観ても正当性を有する存在となること、換言すれば、受益者の立場・関心事をも反映したかたちで、国連活動の“relevance”、有効性、効率性が確保されること等が必要条件であり、そのための国連（諸機関を含む）のアカウンタビリテイ強化と地球市民社会の役割増強が、国連改革の一環としても注目されるに至っている。

右を踏まえ、ここでは、まず始めに（１）アカウンタビリテイの基本概念、（２）国連のコンテキストでのアカウンタビリテイ（管理型及び政治的アカウンタビリテイ）の概念につき簡単にふれた後、（３）国連のアカウンタビリテイ強化に関する基本的枠組の提示と、その中で「ステークホルダー」（利害関係者）としての地球市民社会の役割強化の必要性に言及する。

次いで、この枠組みをベースに、国連の正当性、relevance、有効性、効率性の高揚を目的とした国連アカウンタビリテイの強化を図る上でのステークホルダーとの「エンゲージメント」（関係強化のための戦略・プロセス）の問題についてやや詳しく述べる。具体的には、“stakeholder engagement”の背景、目的（期待される事柄）、態様、主要関連報告、これまでの推移並びに現状（国連プロパーを含む国連システム全体としての態様。主要例示）等々にふれた上、結びとして若干の提言を行う。